

世界の

見方



沈 斯淳氏
台北駐日経済文化代表処代表

平和と安定 継続を

6月27日に台湾北部・新北市にあるテーマパークで粉じん爆発事故が発生した際、ただちに日本から治療用の人工皮膚やガーゼなどの医療資材が送られ、やけど専門の医療チームを台湾に派遣していただき、台湾の人々は日本のさまざまな支援に感謝している。

今年には第二次世界大戦終戦70周年の節目の年であり、台湾では一連の「抗日戦争勝利および台湾光復

(主権回復)70周年」の記念活動が行われている。8年間及ぶ抗日戦争(日中戦争)は、中華民国政府が主導し、蒋介石・同政府軍事委員長が軍民を率いて勝利に導いたものだ。また、これにより台湾は植民地統治から脱却することができた。抗日戦争勝利を記念することは、反日感情を刺激するためではない。歴史を

かみとし、深い反省から教訓をくみ取ることによ

てのみ、戦争を防ぎ、平和を守ることができる。台日の友好関係は双方の政府および国民の長期にわたる努力の下、強固な基礎が築かれてきた。馬英九総統は、台日関係を極めて重視している。2008年に総統就任後、台日関係を「特別なパートナーシップ」と位置づけ、政治・経済・文化各方面における双方の實質的関係を全面的に強化してきた。その成果として、

てきた。その成果として、

日台関係

日本にとって台湾は4番目、台湾にとって日本は3番目の貿易相手であり、昨年の貿易総額は616億ドルに上る。人的往来も活発であり、昨年の相互訪問人数は460万人。台湾からの訪日客は297万人で海外渡航先のトップだった。昨年訪台した知事は延べ18人、副知事は12人。2013年度に台湾を修学旅行先に選んだ日本の高校は138校、合計2万人を超えた。学校数、人数共にシンガポールに次ぐ第2位だ。

台日間の航空自由化(オープンスカイ)の実現、ワーキングホリデー制度の実施、投資取り決め、漁業取り決めの締結などの多くの進展があった。

台日は戦後70周年の今日、すでに強固な友好関係が構築されており、アジア各国が戦争の闇から抜け出し、真の和解を達成する模